

お茶の時間

ミュンヘンの壁と

幼稚園の壁

編集委員長

ドイツに新たな「ベルリンの壁」が出来たと噂になってきている。「ベルリンの壁」とは、言うまでもなく東西冷戦の中、東西ベルリンを隔てるためにソ連が建設したもので、1990年の壁の崩壊が冷戦の雪解けの象徴となった。

そんなドイツのミュンヘンに難民と一般住民を隔てるために壁が作られたのである。ミュンヘンに難民収容施設の建設計画が持ち上がったのは、約5年前だと言われている。収容者は、親と離れ離れになった未成年の難民約80人を収容するための施設である。

この収容施設建設に、住民が建設差し止めを求めて提訴した。この打開策として、自治体は壁の建設を提案し、論争が起きた。近傍住民からは、「難民を差別するつもりはない。ただ、難民の少年たちが深夜まで騒げば、平穏な住環境が乱される。壁の建設は、お互いにとって最善の策だ」と言う。

難民支援団体からは、「様々な危険な環境から逃げてきた人々を壁で隔離するような方策は受け入れられない。対話する努力が必要だ」と反発した。

結果として、自治体主導で壁の建設は行われ、5カ月後に完成した。

この「ミュンヘンの壁」は厚さ70cm、長さ約100m、高さ約4mで、石を積み上げて作られている。壁の高さだけなら、「ベルリンの壁」の3・5mよりも高い。「ベルリンの壁」を連想させる光景に「社会の多様性を否定する恥ずべき行為」と批判が起きている。他人事のようにだが、日本でも同じようなことが起きている。難民収容施設ではなく、保育園、幼稚園である。

子育て支援が叫ばれ、あちこちの首長が「待機児童ゼロ」を掲げている中、公園や遊休地を活用した建設計画が都内のあちこちで持ち上がっている。

これに対し、住民から「子供の声があるさく、住環境が壊される」とか、「大事な緑が失われる」などの反対意見が出されている。近傍の区では、これに対応するために、高さ2mの防音壁を建設した。共に生きていくことが難しい時代になったのだろうか。

因みに、6月20日の「世界難民の日」に合わせて発表された統計では、難民や避難民の総数は2016年末、6千560万人で過去最高を記録した。

難民数は2千250万人、国別では、シリアが550万人、アフガニスタンが250万人、南スーダンが140万人である。